2021年4月17日、創立30周年を迎えました

1980年代後半に、日本では、機械翻訳（MT）のブームが起こり、富士通、東芝、NEC、NTT等10社を越える有力企業が個々に巨額の資金を投入しMTの熾烈な開発競争を繰り広げました。この盛り上がりを背景に1991年にアジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）が日本周辺リージョンでのMTの普及を目指して創立されました。欧州を担当するEAMTとアメリカを担当するAMTAが同時に創立され、3団体連合の世界機械翻訳協会IAMTがMTサミットという国際会議を運営しています。今年2021年はAMTA主催で、2023年は我がAAMT主催です。

30年の間に様々なことがありました。機械は大型からPCにそしてスマホに姿を変えました。つまり、小型化し、高速化し、メモリは大きくなり、ネットワーク化され、日用品化しました。MT技術も、規則に基づく手法、用例に基づく手法、統計に基づく手法、そして現在のニューラルネットに基づく手法と、大変化を繰り返しました。ここ数年はMTの精度が急速に向上しつづけて天井はまだ見えておらず、MTの研究者・開発者にとって楽しい時代です。

高精度MTの恩恵に与っている利用者は多いです。多言語の音声翻訳の製品が巷に溢れ、どこの国であろうと観光の会話には全く困りません。又、生活の多様な場面で約300万人の在留外国人と日本人のコミュニケーションに役立っています。レストラン、美容院、建築現場、工場、郵便局、自治体窓口、交番、救急車、診療所と枚挙の暇がありません。商社の人が顧客向けの各種文書作成にMTを、大学院の学生が論文作成にMTを活用しています。翻訳のプロにもMTが広がり始めました。コロナ禍も追い風で、仕事のリモート化が進み、外国人とのコミュニケーションの機会が増えていて、MTと親和性があります。AAMTの法人会員数増加の倍々ゲームも続きそうです。MTを停めることはもはや誰にも出来ないでしょう。

人類の明るい未来とMTに杯を干す

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会
代表理事・会長　隅田　英一郎